

家のリフォームに際して、中心課題は二階ベランダの直しと緑化でした。一年中、風雨にさらされ、暑さ寒さに耐えられる材料で、階下の部屋の冷暖房費の削減を押し進める効果のあるものが必要でした。同時に家族の希望も含めて多くの箇所の手を加える必要もあり、その構想が曖昧なままで、東部建設協同組合（以後「組合」）に説明できる状態ではありませんでした。そこで、東京、川崎、横浜、大手建築企業の新築マンションや住宅展示場を回り、曖昧な構想をより明確にし、良いところ取りを狙ってせつせと情報を集めました。勿論、雑誌やインターネットの情報もです。

この訪問活動を通じて、世間一般に「エコ」が重視されていることを再認識させられました。業者の殆どの共通用語は「シックハウス」と「オール電化」と「断熱」でした。

「シックハウス」に対して接着剤の更や無垢材の使用を全面に出している企業が多く、同時に「オール電化」を押し進めることにより都市ガスを排除してキッチンにIHクッキングヒーターの設置を推奨していました。台所調理に、IHクッキングヒーターを用いる【空気の熱を取り込み効率アップ】を狙った東京電力（エコキュート）とガスコンロを用いる【残った熱でもう一度加熱】する東京ガス（エコウイル）の両者の対決です。販売店に向き説明を受けましたが、どちらが環境に良いか、どちらが経費が安いかの結論を出せませんでした。そこで、わが家のリフォームに無垢材

を使用するが、今まで通り電気とガスを併用し、先の読めない「オール電化」を避けました。そして、「断熱」に関する工事は今回のリフォームに関係ないので、聞き流しました。しかし、肝心のベランダ問題を解決できる材料に出会うことが展示場等ではできず、ペンキ塗りを毎年する以外にないと言われました。二階のベランダ（およそ15畳）は防水加工の床の上にはウッドデッキとして木組みによる床板が張られていました。ここにはテーブルを置き、プランターで花を育てていました。一度ペンキの

ウッドデッキの耐久性と 安全・安心・環境

友の会会員・西村盛親

塗り替えをしたものの、この板が5年しないうちに傷みがひどくなり、足元がおぼつかない状況になったことが、今回のリフォームへの決意でした。

ウッドデッキの木材選びの条件は雨水や水遣りに傷まない素材を使うことでした。老化しつつある私たち夫婦の安全な足元を確保し、安心して草花や野菜を育てられる環境を作ることでした。

当初、この意向に合わせて「組合」から提示された「イペ」材（原産地：南米アマゾン川流

域等）だけで上手く行く筈でしたが、比重1.07（水1.00より重い）ため水に浮かない）を前面に用いると総重量が1トン前後となり、1階の梁が耐えられないことが判明しました。

（木材販売会社の資料より）

材種	比重	色	節	硬 度	耐久性	加工性	素足	土足
イペ	1.07	黄褐色	なし	極めて硬い	25年以上	硬い	△	◎
ウリン	1.04	黄褐色	なし	極めて硬い	25年以上	硬い	○	◎
アフゼリア	0.75	赤褐色	なし	硬い	15～20年	やや硬い	◎	◎
薬品注入材	0.50	緑 色	両方	柔らかい	5～10年	柔らかい	△	△
桧（国産）	0.43	褐 色	両方	柔らかい	3～7年	普通	◎	△
レッドシーダー	0.37	濃褐色	両方	極めて柔らかい	5～10年	柔らかい	◎	△～×